

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300033		
法人名	有限会社グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホームふるさとの家「城下」	ユニット名	
所在地	長崎県島原市新湊二丁目丙1740番地2		
自己評価作成日	2022年 8 月 20 日	評価結果市町村受理日	2022年 12 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年 11 月 2 日	評価確定日	2022年 11月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設独自の行事やイベントを多く取り入れ、外出が難しい利用者の方々へも楽しく活動できるように支援するよう心がけている。また、新型コロナウイルスで面会ができない時期でも、利用者の表情や暮らしぶりがわかるように、「城下」新聞でお知らせするとともに、各個人用の写真をご家族様にお送りしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1998年に古民家を改装し、“グループホームふるさとの家「城下」”を開設した。2011年に現在の場所に新築移転されており、来年(2023年)は開設25周年を迎えるホームである。日本の良き風情を残し、トイレの戸や食器棚も木目調にされており、開設時からの理念である「老いても障害を持っても、当たり前のように普通に暮らしたい」を大切にしたい日々が送られている。毎日外出する機会を作り、季節を感じたり、海や山のドライブを楽しみ、車いすを利用する方も多い中、食事、入浴、排泄などのケア時は事前の声を丁寧に聞き、ご本人の意思を大切にケアが行われている。入居前の生活や役割等を家族に教えて頂き、コロナ禍においても楽しみを増やすように努め、室内でそらめん流しをされたり、日々の役割(タオルたたみ、しわ伸ばし、新聞折り等)を担って頂いている。主治医やホームの看護師との医療連携も密に続けられ、早期対応に繋げると共に、家族も一緒に誠心誠意の終末期ケアが行われている。2021年8月から新管理者・副管理者が就任し、新たなチームで日々の結束を続けている。代表との連携も密に行い、家族との情報交換も続けながら、「当たり前」「普通」に暮らせるよう、職員全員で笑顔のケアを続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、全職員が共有し日々ケアに取り組んでいる	重度の方が多く生活される中、「当たり前」「普通に」という理念の実践に努めてこられた。生活歴に沿ったケアの実践を行うと共に、ご利用者個々の心身状況や病状に伴う留意点を共有し、丁寧なケアに繋げている。意思疎通が難しい方もおられ、家族から生活歴を教えて頂き、日々のケアの参考にさせて頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災避難訓練に、各施設の防災委員が必ず参加している	高校生の福祉実習も受入れ、地区の防災訓練にホームの防災管理者が参加している。道路向かいの方と交流があり、お花を頂くこともある。法人内施設（放課後等デイサービス）の子ども達との触れ合いもあり、ホームの敬老会で子ども達の作品贈呈会も行われた。コロナ以前は八幡神社のお神輿がホームに来て下さり、ご利用者もお費銭を入れたり、ご利用者と地区の運動会やお祭り、鬼火に参加していた。	コロナ以前は地区の運動会やお祭り等に参加できていた。今後も地元の方々や安仲保育園との交流方法を検討したり、毎年参加している市民清掃時（年2回）に、より広く2丁目の住民の方々にご挨拶し、更なる地域交流を行っていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事があれば参加し、認知症について常に発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の新聞等を配布して内容を説明している	手作り新聞やご利用者の状況等をお渡しし、ホームの取り組みを理解して頂くと共に、地域行事などを教えてもらっている。コロナの感染状況を見ながら、通常開催を6回、書面開催を4回行い、コロナ関連の情報交換も行っている。大雨災害に関する避難場所を紹介して下さる時もあり、有難く思っている。	

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターとは情報交換は行っているが、市町村担当者とはとっていない。知り合いの行政職員に聞いている	代表や専務（事務長）が市役所を訪問し、情報交換している。コロナ関連の相談（コロナワクチンの接種方法、クラスター発生時の防護服等の協力）を長崎県や島原市に行い、長崎県から地域行政の連絡場所や防護服の受取場所を教えてもらった。島原市GH連絡協議会の運営に管理者が携わり、研修担当の役割を担っている。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束研修会を行い全職員で勉強する機会を頂いている	各施設（介護）の身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束廃止・虐待防止委員会（年6回）や勉強会を続けている。様々な事例検討を行うと共に、2022年度の年間目標と3カ月毎の目標も職員で決めている。「心のゆとり五か条」も日々取り組まれ、職員個々の言動も振り返り、改善策の検討と実践に繋げている。法人内の身体拘束廃止委員会による、施設訪問チェックも行われている。日々の職員の丁寧な寄り添いと介護で、穏やかな生活となっている。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でも声掛けし注意するようにしている	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に1名活用されている方がいます	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明を行い、必ず疑問はないか尋ねている	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には要望等を聞く手紙を発送している	コロナ禍における面会希望を伺い、感染状況に応じた個別対応を続けている。家族の方に新聞（2か月に1回）や職員からの手紙（毎月）を郵送し、日々の暮らしぶりを報告している。管理者が介護計画の説明を行い、要望などを伺っており、運営推進会議に家族代表が参加して下さる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議やスタッフ会議に代表が参加して要望を聞き出す。	職員同士の助け合いもあり、良いチームとなっている。オルガン・歌・レク・料理など、職員個々の特技を發揮して頂いている。勤務希望（曜日・時間等）に応じた勤務調整を行い、日・祭日に出勤した人には手当をつけ、子育て中の職員が働きやすいよう勤務時間を調整している。毎月、代表とお話する機会も作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナスでの評価、各施設へ交流会費用を出して下さり、向上心をもって働けるようして下さっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修・外部研修など受ける機会を作っておこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦会など参加させて下さっている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話を増やし何事も受け止め否定せず信頼関係を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なこと、困っていること、要望などしっかり細かく聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族と話をして必要な支援を探し出す		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴などから、得意なことを教えてもらい会話しながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の力を借りながら日々支援し面会時には自室にて家族の方と時間を作っていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅方面へドライブに出かけている	生活歴を教えて頂いており、系列のデイサービスやグループホームの知り合いの方とお話をしている。ドライブの際に馴染みのスーパーの前を通り、会話のきっかけにしたり、馴染みの山や海、雲仙の紅葉見物や八幡神社、自宅周辺等にお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が困難な方は、職員が間に入り顔だけでも合わせるように覚えてもらっている		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先であったり連絡があったときには今の状況を尋ねたりして相談を受けるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず希望、意向を尋ね困難な場合は家族に尋ねるようにしている	意思疎通が難しい方もおられ、表情や身振り等で教えて頂いている。ご利用者に寄り添い、興味がある事や要望を把握するように努めている。「島原そうめんが好き」「饅頭が好き」「髪の毛のカットの長さ」や「湯温」の希望を叶えると共に、自宅のことを心配されている方は、自宅までお連れし、安心して頂いている。ご本人の食の好みや好きな色などを家族から教えて頂き、日々の参考にさせて頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までのことを尋ねている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で確認しあい、一日の過ごし方を決めている（体調に合わせ）		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族に要望を尋ね、今の問題は何か話し合い介護計画を作成している	前回の外部評価以降、生活歴の再確認作業を行い、ご本人や家族への聞き取りを深めてこられた。身体介護が増えている中、洗濯物たたみや茶碗拭き、散歩（毎日1回、外に出る）等と共に、転倒予防のための「機能訓練」「城下体操」「朝に1回、膝上げ10回」等も盛り込み、機能の維持向上に繋げている。	今後もアセスメントに、介助理由や有する能力、ご本人の要望、医師や看護師の意見等を追記すると共に、アセスメント内容と要約表の整合性、要約表と介護計画（1表・2表・3表）との整合性を整えていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入時、大切なところは色を変えて書くようにしている		

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に合わせ、支援させていただいている	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生や保育園児の訪問があり安全で豊かな生活ができるよう支援している	
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ本人の希望するかかりつけ医にするようにしている	介護計画に医療面の留意点を記入している。内科（月2回）と歯科の往診があり、かかりつけ医は夜中も往診して下さる。職員の観察力もあり、早期対応できており、24時間体制で主治医、ホーム長（看護師）に相談できる体制ができています。受診結果は家族と共有し、年1回、受診同行される家族もおられる。
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時に連絡し受診が必要であれば主治医へ連絡し受診している	
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い入院中状態などを病院に尋ねている。退院後も病院との連絡を行っている	
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人・ご家族の意向を聞いて終末期は再度訪ねている	「最期までここで」等の希望を伺っている。病状変化に応じて主治医と家族と話し合い、「安楽な生活」「緩和ケア」等の検討を続けている。24時間体制で主治医と連携でき、ホームの看護師も駆けつけて下さる。夜間急変に備え、主治医や家族、全職員に事前に報告し、連絡が取れる状態にしている。連日、誠心誠意のケアが行われ、ご本人が亡くなる前に「お世話になったね。ありがとう」というお言葉があり、家族からも「こちらで良かったです」というお言葉をいただいた。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議などでも話し合い急変時の対応など想定するようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日自己点検を行っている。消防署。消防団・地域の方々との避難訓練も行っている	防災委員がBCP（業務継続計画）ガイドラインを作成している。夜間想定で自主訓練（年6回）を行い、年2回は消防署、消防団、地域の方と4棟合同訓練をしている。訓練マニュアルを作り、実施状況は写真で残し、検証記録を今後活かしている。各棟の代表（男性職員）が災害対策を毎月検討し、自家発電機、防災頭巾、食料（水・缶詰・レトルト食品等）、災害バックや独自の持ち出し品等と共に、災害時に受け入れる系列事業所の利用者情報シートも準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けを行っている	島原の方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さに注意している。羞恥心に配慮し、排泄時の声かけは小さな声で行い、排泄時は入り口を必ず閉め、脱衣の際もタオルをかけている。ご利用者のお話は親身に聴くように努め、個人情報管理も続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を取っているが、その時の状況次第では都合を優先する場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに常に気を付けている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食後の食器集めなど重度の方でもできることはしてもらっている	咀嚼と嚥下能力を観察し、個別に食事形態を変えている。調理担当の方が3食手作りし、休みの日は配食を利用している。1日・15日は赤飯が恒例で、四季折々の行事やハイキング等を楽しまれ、誕生日は手作りのケーキでお祝いしている。ご利用者も下さりえ（包丁で皮むき等）、下膳、食器拭き、テーブル拭き等をして下さり、梅干し作りや干し柿作りも楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バランスを考え食事提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後又は就寝前には必ず行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入しパターンを把握。早めにトイレ誘導を行いパット使用量を抑えるようにしている	尿便意を把握し、排泄チェック表に記入しており、パッド使用の有無も職員間で検討している。頻回のトイレ希望の方もおられ、医療連携を続けると共に、気分転換の時間も作られている。シルバーカー移動の方も職員が後ろで見守り、車椅子利用時も含め、職員が歌を唄いながら楽しく移動する時もある。時間誘導の成果で、昼間の失敗が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多めに行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は週に3回は入ってもらうようにしている	湯温の希望等を確認している。入浴時は昔話をして下さり、歌も聞かれている。音楽を流す時もあり、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。重度の方も多く、ご本人の入浴における心身の負担度を丁寧に考え、ホーム長（看護師）から湯温や入浴時間のアドバイスを受けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	重度の方には必ず1日の中で1回1時間程度体を休める時間を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についても少しでも疑問に思ったらお薬管理表で確認するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の利用者の方にはいつも家でされていた洗濯物たたみなどをしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけた場所を何気ない会話で聞き出し、天気の良い日に出かけている	感染対策を行いながら、庭先での日光浴や周辺の散歩、海や山、自宅近くのドライブを楽しまれている。季節の花見（桜、つつじ、秋桜、紅葉など）も行い、誕生日にケーキ屋にお連れし、選んで頂いた方もおられる。コロナ前は外食（幸楽）や買物にお連れしていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人はしていない。ご家族にお任せしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安になられたときは、電話でご家族と話される時もある		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度など常に注意している。コロナ渦でもあり徹底している	対面式のキッチンで、リビングと和室全体が一体化し、換気も適宜行われている。ご利用者個々の椅子があり、背もたれ等も個別に調整でき、下肢の浮腫予防で手作りの足台を活用し、足の挙上も行われている。リビングの神棚に手を合わせたり、テーブルで洗濯物たたみやしわ伸ばし等もして頂いている。職員がオルガンを弾き、「君が代」や「島原の子守歌」等を一緒に歌い、体操等を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方へ座りたい場所を確認している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものをもってきていただきご家族の写真等を飾っている	和室（障子）と洋室（カーテン）があり、心身状況に応じてベッドの上にエアマットを使用したり、畳の上にマットレスと布団を敷く方もおられる。馴染みのたんすや座椅子、ブラシ等も持ち込まれ、家族の写真も飾られており、ホームのCDラジカセで演歌を流す方もおられる。冬は加湿器を使用し、換気も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手すりが設置されておりトイレや洗面所などわかりやすいように掲示している		